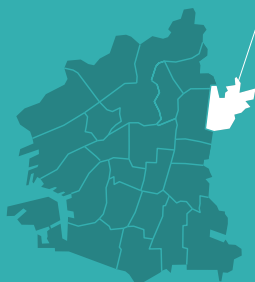


No.059

スーパーリサーチャー「イノっち」が
大阪市24区を斬る

数字で見る経済

18 鶴見区



大阪産業創造館までの時間距離

鶴見区役所からの所要時間
実際に計測。地下鉄利用。
電車の待ち時間を含む。

▶約35分

イノっちこと井上智之(いのうえ さと)

1970年生まれM型。某シンクタンクで関西の産業振興に関する調査をしていたが、縁あって大阪都市経済調査会へ。俯瞰的な分析を徹底するクールさと「いつかは独立したい」というアツイ野心を併せ持つが、泥酔すると昭和歌謡で突然踊り出す奇怪な一面も。

子ども向けサービス需要増大！？ ～若年人口比率が最も高い区～

鶴見区は、区の全人口に占める15歳未満の人口（以下、若年人口）比率が24区中最大（16.9%、市全体12.6%）で、なおかつ1世帯あたりの人数も最大（2.53人、市全体2.12人※）で、子どものいる世帯が多いことが特徴です。若年人口を「0～4歳」、「5～9歳」、「10～14歳」という3階層に分けてみても（表）、人口比率が最大となっていることから、乳幼児から中学生まで幅広い年齢層の子どもを持つ世帯が多いことが分かります。

若年人口の増加率を見ると、こちらも24区中最大（1995年→2005年：+10.5%）で、なおかつ3階層すべてにおいて人口が増加したのは鶴見区だけでした〔（「0～4歳」（+16.7%）、「5～9歳」（+8.0%）、「10～14歳」（+6.2%）※〕。このことから、近年、子ども向けのサービス需要が増大したと考えられます。

たとえば、サービスの一例として、幼稚園と保育園の立地動向（1995年→2005年）を見てみると、幼稚園は園数（6→6）、在園者数（1,579人→1,578人）ともほとんど変化

が見られませんでした。保育園は私立で倍増（公立：5→5、私立：4→9）し、定員数（公立：522人→585人 +12.1%、私立：390人→825人 +111.5%→私立の定員増加率は24区中3位）が大幅に増加しました※。1995年当時、保育園は定員に満たない状況でしたが、2005年には定員を14.1%超過（24区中3位）しており、サービス需要が拡大している様子がうかがえます※。

上記で見たように、鶴見区では人口増加とともに、子ども向けのサービス需要が増大したと思われそうですが、なかには供給が追いついていないケースもあるかもしれません。

今後、区内では大阪外環状線鉄道（現：城東貨物線）の開通や大型商業施設の開店が予定されており、生活の利便性はさらに向上する見込みです。そのため人口の増加傾向は今後も続くと予想されますので、子ども向けのサービス需要（ビジネスチャンス）はさらに増大する見込みです。

【図表】若年人口比率（2005年）

	人口	若年人口 0～14歳	0～4歳	5～9歳	10～14歳
鶴見区（人）	105,585	17,871	6,658	5,905	5,308
比率（%）	100.0	①16.9	①6.3	①5.6	①5.0
大阪市全体（人）	2,497,208	313,936	108,201	104,940	100,795
比率（%）	100.0	12.6	4.3	4.2	4.0

24区中①位

資料：国土地理協会「住民基本台帳人口要覧」より作成

※詳しい統計データとバックナンバーはこちら ▶ <http://www.tyosakai.jp/toukei/number.html>